【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成18年6月22日(2006.6.22)

【公開番号】特開2002-284522(P2002-284522A)
【公開日】平成14年10月3日(2002.10.3)
【出願番号】特願2001-92343(P2001-92343)
【国際特許分類】
Ｃ０１Ｆ　11/18　(2006.01)
Ｄ２１Ｃ　11/00　(2006.01)
Ｄ２１Ｈ　17/67　(2006.01)
Ｄ２１Ｈ　21/50　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０１Ｆ　11/18　A
Ｄ２１Ｃ　11/00　Z
Ｄ２１Ｈ　17/67
Ｄ２１Ｈ　21/50　A

【手続補正書】
【提出日】平成18年5月2日(2006.5.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
炭酸カルシウム中の不純物の含量については、例えば紙に用いる場合、特に着色成分（Fe、Mn等）が問題となる場合があるが、製品の用途にあわせて着色成分含量の少ない原料石灰石から得られる生石灰を適宜選択すればよい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
苛性化反応時の攪拌は、石灰乳調製時と同様、一般的な攪拌羽根式の攪拌機を使用すれば良いが、反応開始から反応終了までを通して、P/V値で0.1kw/m^3以上、好ましくは0.6kw/m^3以上の条件で攪拌混合して苛性化反応を行わせる。P/V値が0.1kw/m^3未満の場合には、石灰乳と緑液が均一に混合されず、反応が不均一となり、生成する炭酸カルシウムのアラゴナイト結晶含有率が低下するとともに、形状が塊状あるいは不定形となり好ましくない。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】

【表１】

		実施例				
		1	2	3	4	5
反応槽直径	mm	3400			650	
攪拌翼径	mm	1200		750	200	
d/D 値		0.35		0.22	0.31	
攪拌翼の周速	m/s	8.8		4.7	7.9	17.8
石灰乳調製時 P/V 値	kw/m^3	7.1		1.3	8.9	88.9
邪魔板	枚	4		－	2	
石灰乳濃度	%	30.3	30.3	22.7	22.7	30.0
石灰乳調製時溶媒		水	水/白液=2.25t/0.75t	水		
緑液添加速度	ml/min/g	0.12	0.16	0.12	0.23	0.23
苛性化温度	℃	50	75	50	50	90
反応終了時 P/V 値	kw/m^3	1.3	1.3	0.3	1.9	18.5
粒子形状		イガグリ状	針状	イガグリ状	イガグリ状	針状
ｱﾗｺﾞﾅｲﾄ含有率	%	94	91	78	84	91
平均粒子径	μm	5.8	6.1	7.7	4.3	5.4
短径	μm	0.15	0.4	0.2	0.2	0.5

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
【表２】

		比較例				
		1	2	3	4	5
反応槽直径	mm	3400	650	3400		
攪拌翼径	mm	1200	100	1200		
d/D 値		0.35	0.15	0.35		
攪拌翼の周速	m/s	1.9	3.9	8.8		
石灰乳調製時 P/V 値	kw/m^3	0.07	0.3	7.1		
邪魔板	枚	4	2	4		
石灰乳濃度	%	30.3	22.7	5.0	30.3	30.3
石灰乳調製時溶媒		水				
緑液添加速度	ml/min/g	0.12	0.23	0.12	0.70	0.12
苛性化温度	℃	50	50	50	50	15
反応終了時 P/V 値	kw/m^3	0.01	0.03	1.3	1.3	1.3
粒子形状		不定形	不定形	不定形	不定形	不定形
ｱﾗｺﾞﾅｲﾄ含有率	%	0	0	0	0	0
平均粒子径	μm	11.2	10.1	8.6	9.3	8.9
短径	μm	－	－	－	－	－

【手続補正５】
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図５】

比較例３

（アラゴナイト結晶（含有率０％）のＸ線回折チャート）

